

■ 資 料

沖縄におけるプロ野球キャンプ

小池 秀夫

目 次

- I. はじめに
- II. キャンプ形態からみた変化
- III. キャンプ地分布の変化
 1. 県別分布
 2. キャンプ日数からみた県別分布
 3. キャンプ日数からみた市町村別分布
- IV. キャンプと観客数
 1. キャンプとは
 2. キャンプ見学
 3. 球団別キャンプ観客数の推移
 - a. 巨人
 - b. ホークス
 - c. 阪神
 - d. 中日
 - e. 楽天
 - f. 日本ハム
- V. 沖縄におけるキャンプ観客数の推移
- VI. おわりに

▶ 要 旨

日本プロ野球12球団のうち沖縄で春季キャンプをするのは、2011年遂に10球団を数えるに至った。本稿ではキャンプ地分布の変化のほか、観客数からキャンプをみることにした。期間中（2月）に毎日発表される数字を13年にわたって集計してみた。

球団による差はもちろん大きいですが、同じ球団でも、キャンプ地移転のほか注目の選手や監督の入・退団等により、大きく変化する。地域的には沖縄への集中傾向が強い。2012年のキャンプ日数（延べ数）でみると、県別では沖縄が72.3%となり、宮崎の26.5%を引き離した。球団別観客数では、主に宮崎市でキャンプを張る2球団が他を圧倒している。2004年にホークスが巨人を逆転したが、2009年に再逆転となった。ここ2年ほどは拮抗している。2012年の場合は巨人が20.3万人で、22%ほど多い。しかし、集計期間内に巨人はオープン戦と練習試合をそれぞれ2回行ったのに対し、ホークスは皆無で、土曜日が1回練習休みになったのである。沖縄に限ってみれば、阪神が期間延長によって全体の25.3%を占め、次いで4日間（休日を除く）のみの巨人が17.2%、ヤクルト12.7%、中日12.5%となる。

▶ キーワード

春季キャンプ, キャンプ地, 沖縄, キャンプ観客数, 非経済的効果, ファンサービス

I. はじめに

2月の沖縄。この時季は桜の季節であるが、花と緑と暖かさは本土との違いを最も強く感じさせてくれる。さすがに泳ぐにはまだ早い、ホエールウォッチングも近年の目玉となっている。さらにもう一つ。「球春到来」で、多くのプロ野球選手の一拳手一投足を間近で見られるのも大きな楽しみである。

地域にとってもかなりの経済効果や非経済的効果が期待できる。この点に関しては地元紙でも毎年取り上げられている。このうち経済効果については、りゅうぎん総合研究所の試算（毎年『りゅうぎん調査』4月号か5月号に詳報掲載）に依拠している。県内全体としてはヤクルトが浦添市でキャンプを始めた2000年から発表されている。それにより経済効果（うち直接支出額）をみると、この年の約11億円（9億円）から、阪神が加わった2003年には約32億円（21億円）となった。直近の2011年には約86億円（55億円）に増加した。当初予想を下回ったが、初めての巨人キャンプと斉藤佑樹投手など有力新人の参加などにより、大幅増加となった。今までのピーク（ロッテが加わった2008年）と比べても4割ほど多い。今年の予想額も同程度である。阪神の期間延長とともに日本ハムにおけるマイナス要因がある。

キャンプ地としての沖縄の地理的要因を論じたものもある¹⁾。それによると、沖縄県の優位性は①冬季でも温暖な気候、②日没時間が遅い、③プロ野球球団の使用に耐える球場の分散立地、④受け入れ市町村の施設整備、などがある。さらに、「基地使用料の存在という一般的な地域的特性のほかに、監督との個人的なネットワークや、他球団キャンプ地との関係」²⁾も指摘されている。

これより先にスポーツ紙でも取り上げられた。「今なぜ、沖縄なのか—。その理由は、温暖な気候、自主トレからキャンプへのスムーズな移行のほかに、国費による『充実した施設建設ラッシュ』があった。（中略）気候だけなら海外でもいいことになるが、沖縄には『整備された施設』という利点が大きい」³⁾。

これらの点については、特に新たに展開すべき材料は持ち合わせていない。本稿ではキャンプ地の分布とキャンプ観客数を中心にみていくことにする。

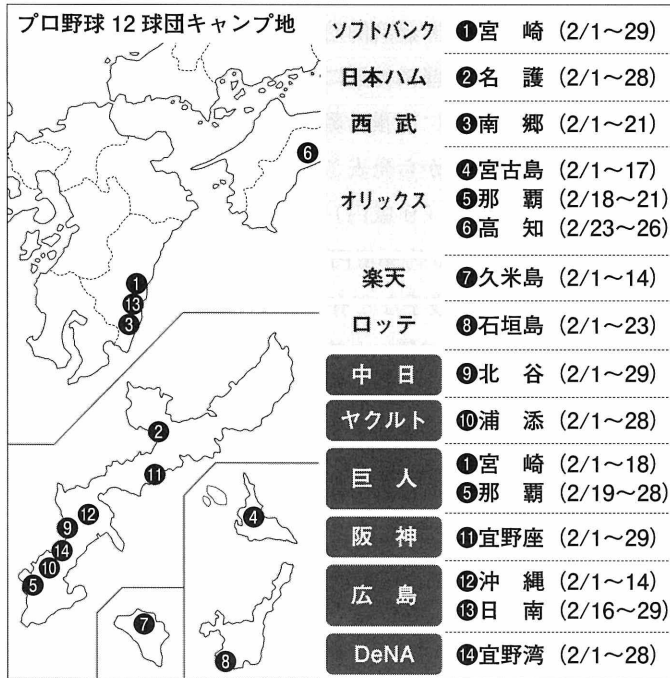
2011年に沖縄県でキャンプをした日本の球団の数について、沖縄の人なら多くが知っている。念願の巨人がやってきて10球団になる、ということはマスコミなどでもたびたび取り上げられていたからである。同年2月20日、宮崎市で広島との練習試合を終え、チャーター便で那覇空港に到着した選手らを1,200人が出迎えた。時刻は夜の9時を過ぎていたが、「主力選手への歓声とカメラのフラッシュが瞬き、空港は歓迎ムード一色に染まった」⁴⁾。

ところで、12球団のうち10球団が沖縄キャンプをしたわけであるが、本土で行った球団数はいくつか。これに正しく答えられる人はそう多くはない。12-10=2という計算にはならないのである。確かに近年沖縄でキャンプをする球団が増えてきたが、その集中度は12分の10、す

なわち約83%とみることはできない。

第1図は毎年キャンプ開始前日の全国紙，第1表のようなものは2月に毎日スポーツ紙に掲載されるものである。後者は各球団の発表をまとめたものである。同じ基準での数字ではないし，球団もしくは日によって多めに発表することであろう。特別貴重な，というものではなく，

第1図 2012年の春季キャンプ地と期間



(注) 朝日新聞，2012年1月31日(朝刊)による。

第1表 キャンプイン日の観客数とキャンプスケジュール

◆12球団キャンプスケジュール◆		※球団マークはオープン戦の対戦相手。練は練習試合(予定)																												
球団	観客数(人)	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	3/1
中日北谷	1500	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
ヤクルト浦添	650	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
巨人宮崎	2800	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
阪神宜野座	2500	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
広島沖縄	300	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
DeNA宜野湾	1000	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
ソフトバンク宮崎	2800	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
日本ハム名護	450	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
西武南郷	250	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
オリックス宮古島	800	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
楽天久米島	300	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
ロッテ石垣島	400	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

(注) 日刊スポーツ，2012年2月2日の表を抜粋。

誰もが目にするデータであるが、これを用いていったい何が浮かび上がるか、検討してみたい。

ここでキャンプというのは春季キャンプのことである。特に断らない限り、日本プロ野球12球団、しかも1軍のものに限定する。バッテリーのみなど、一部の場合も除く。なお、球団名は変化しているが、多くの方が分かるように略称することにする。日付に月の表示がないものはすべて2月である。新聞は朝刊である。

Ⅱ. キャンプ形態からみた変化

キャンプは約1ヵ月行われるが、全期間を1ヵ所で行うか、2～3ヵ所にするか。ここでは前者を集中型、後者を分散型と呼ぶことにするが、それは球団によって、また、年によって異なる。日本で最初のキャンプは1946年巨人によって愛媛県松山市で行われたという。

本稿では1970年より5年毎（1990年以降は毎年）の状況をみていくことにする。1970年の場合、ほとんどの球団は集中型であった。例外は、宮崎市の前に多摩川で行った巨人で、阪神も高知県安芸市に移る前に甲子園球場で約10日間行った。そのほかこの時期の特徴は本州で集中的に行ったところが3球団存在したことである（第2図）。沖縄は復帰前で考えられなかったが、温暖地指向があまり強くなかったことになる。

5年後状況は一変する。理由のひとつは海外キャンプが2球団現れたことである。中日と巨人が2月前半をフロリダで行い、前者はその後中日球場と浜松球場での分散キャンプとなった。ほかに広島、ヤクルト、横浜など7球団が本拠地もしくは近接の練習場で最初の約10日間のキャンプをした。

1980年も特徴的である。珍しく分散型は皆無となり、阪神、ヤクルト、横浜の3球団が1ヵ月以上を海外で過ごした。1985年にはまた分散型が9球団となり、5年毎にみる限りめまぐるしく変化した。

1990年も集中型と分散型の比は3：9となり、数の上では同じである。しかし、内容には少し変化があった。集中型であった阪神と横浜が本拠地でキャンプを開始し、分散型のロッテとホークスが一本化した。

この年以降は毎年状況を確認することにする。1990年代前半は分散型が多く、1997年以降は集中型優位が続いており、この面での安定性がみられる。2001年に分散型は広島のみとなり、翌年は横浜が加わった。2004年から2007年までは集中型が8球団、その後3年間は海外キャンプをやめたロッテが加わり、9球団に増加した。2011年には、1993年以降毎年（2004年を除く）宮崎市単独でキャンプをしてきた巨人が初めて沖縄で8日間のキャンプを行ったので、また8球団に戻った。今年には阪神が集中型となったが、楽天が沖縄県内で分散キャンプをしたので、数に変化はない。

Ⅲ. キャンプ地分布の変化

1. 県別分布

第2表によれば、1990年までは5年毎の表示であるが、キャンプ地の分布は様変わりした。その頃まで県数は8を超えていた。特に1975年と1985年が多かった。両年の県数はそれぞれ13, 12でほぼ同じであるが、大きな変化も認められる。1975年に行われたが、1985年にはなかった県は東京都のほか、和歌山、福岡および長崎の3県である。その逆は埼玉、千葉、それに沖縄の3県であった。1990年代に県数は減少し、1998年以降は5県以下となる。

キャンプ地については海外も注目される。1970年は皆無であったが、5年後には中日と巨人が前半の2週間をフロリダ州（プラデントン、ベロビーチ）で行った。1980年には3球団（阪神、ヤクルト、横浜）に増えたのみであるが、キャンプ全期間（32～45日）をアリゾナ州（テンピ、ユマ、メサ）で行った。1990年と1995年には5球団を数えることとなり、西武、ロッテおよびホークスも行った。この時期の特徴はアメリカ本土だけでなく、グアム、サイパン、ハワ

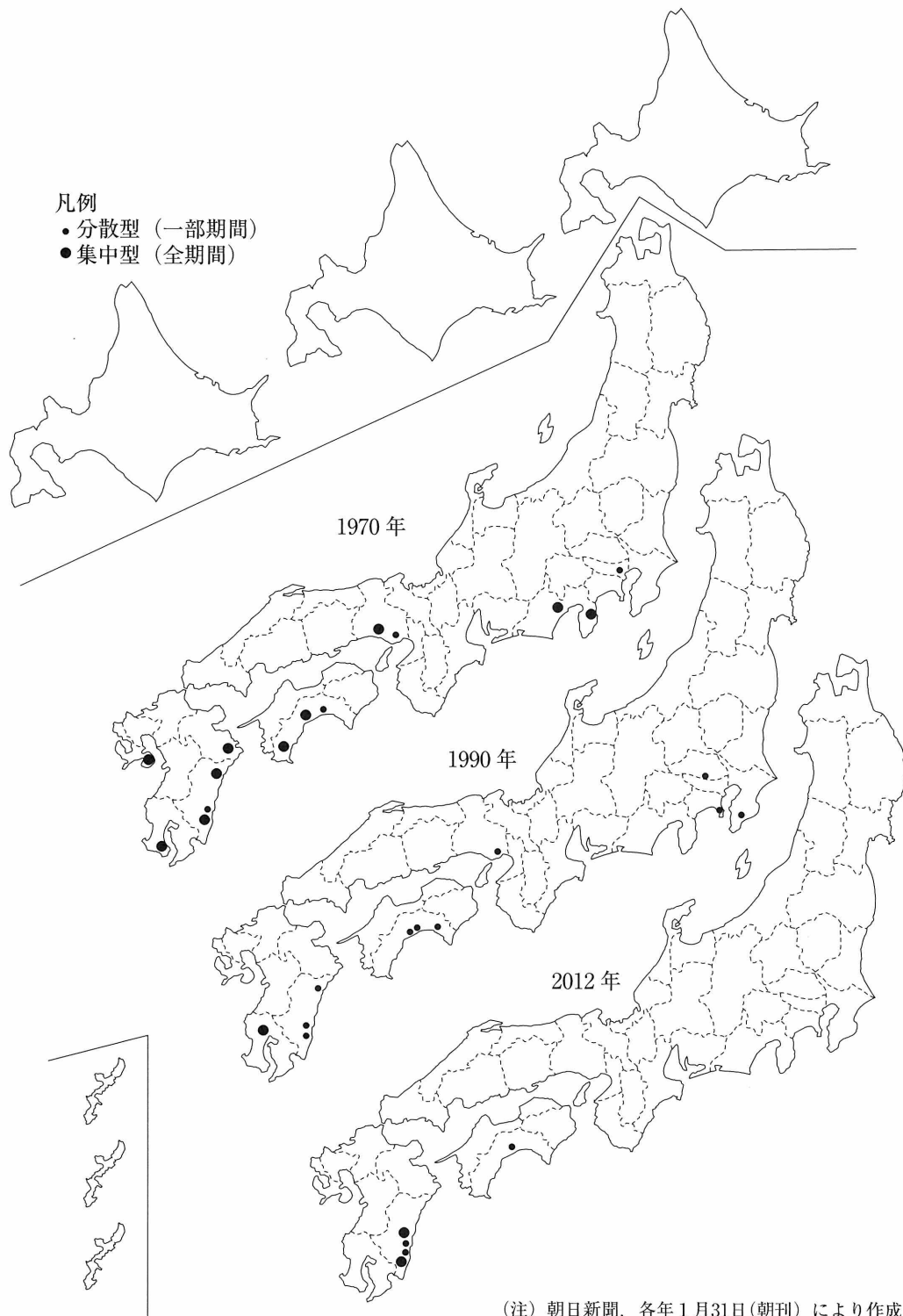
第2表 プロ野球キャンプ日数の県別推移（延べ日数）

（単位：日）

年次(年)	高知県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	その他の県	海外	合計
1970	65	69	27	—	131	—	292
1975	48	72	52	—	181	29	382
1980	112	82	26	—	33	113	366
1985	76	81	29	43	93	65	387
1990	38	62	34	110	29	73	346
1991	72	84	30	106	26	36	354
1992	77	68	30	112	16	61	364
1993	61	73	19	131	—	64	348
1994	46	90	16	127	20	41	340
1995	44	68	9	108	12	88	329
1996	70	73	—	134	7	58	342
1997	82	69	13	124	10	46	344
1998	81	71	12	131	—	50	345
1999	85	72	27	126	—	30	340
2000	80	62	29	154	3	12	340
2001	84	69	33	148	—	—	334
2002	82	69	31	145	4	—	331
2003	61	65	30	163	5	—	324
2004	13	123	27	164	5	7	339
2005	17	103	28	167	—	—	315
2006	16	89	8	189	—	14	316
2007	20	88	11	181	—	14	314
2008	20	84	—	211	—	—	315
2009	20	91	—	207	—	—	318
2010	21	91	—	197	—	—	309
2011	15	78	—	203	—	—	296
2012	11	82	—	235	—	—	328

（注）朝日新聞、各年1月31日のキャンプ地(図表)により作成。

第2図 プロ野球1軍キャンプ地の分布 (沖縄と海外を除く)



第3図 沖縄におけるプロ野球1軍キャンプ地の分布





イ、それにオーストラリアに及んでいたことである。しかし、時差や気温差などによる選手の体調管理の難しさ、国内練習施設の充実などの理由で、2000年の近鉄（当時）のサイパンをもって海外キャンプ時代は終わった。その後の例としては2004年の巨人、2006年から2年連続のロッテのみである。

海外キャンプの消滅とともに国内キャンプ地の集中化も強まった。2008年以降は高知、宮崎、沖縄の3県に限られる。特に沖縄県への一極集中傾向が強まりつつある。

以上の状況を地図化してもおもしろい。第2図の中で1970年も1990年もかなり分散している。分布は一見したところ大きな変化はないが、伊東市、明石市、島原市など7カ所が1990年にはない。さらに、この年はロッテの鹿児島キャンプを除いて分散キャンプであったが、1970年の場合分散キャンプは4カ所のみで10球団が全期間を同じ場所で行った。

沖縄については1985年に日本ハムと広島が分散キャンプをしたが、5年後には6球団に増加した。但し、読谷村で集中キャンプをしたホークスの沖縄キャンプはこの年のみである。うるま市（旧石川市）の中日、糸満市のオリックスもその後それぞれ北谷町、宮古島市（旧平良市）に移り、現在に至っている。2000年には数は変わらないが、ほとんどが集中キャンプとなった。オリックスの宮古島キャンプは1993年からであるが、これが沖縄の離島最初の例ではない。その10年前、中日が石垣島で行っている。しかし、この年のみであり、次の同島でのキャンプは2008年のロッテを待つことになる。

2000年から2011年の間沖縄は球団数も6から10となったが、実質的な変化はもっと大きいといえる。その主な点は①2003年以降の宜野座村での阪神キャンプ、②2008年以降、離島でのキャンプが3球団、③2011年巨人キャンプの実現（しかも、交通至便の那覇市）、である。

2. キャンプ日数からみた県別分布

分布を見る場合、「どこで」よりも「どこでどの程度」が重要となる。地域への経済効果についても集中型か分散型かは大きな意味を持つ。そのため、ここでは単なる県別分布ではなく、キャンプ日数（延べ数）からみることにする。上に述べた3県への集中状況はどうか。

第2表によると、1980年に高知県が112日を数えた。海外キャンプもほぼ同数となり、両者とも今までの最多を示した。5年前と比べて前者が約2.3倍、後者に至っては約3.9倍となった。その後は増減を繰り返しながら減少傾向となった。

高知県は阪神の沖縄分散キャンプ開始のため、2003年に82日から61日へと減少した。2004年はさらに劇的な変化となった。ホークスが高知市、西武が春野町から、それぞれ宮崎県の宮崎市と南郷町に全面的に移転したのである。そのため、同年の数は僅か13日となり、前年の約5分の1に激減した。この年以降は多くても21日止まりである。今年（2011年）は阪神が沖縄へ全面移転したが、オリックスの延長によってなんとか二桁が維持された。

海外キャンプの変化はもっと大きい。1990年代は増減を繰り返した。たとえば1994年の41日

から翌年には倍増した。近鉄（当時）が阪神大震災の影響で中止したが、3球団から5球団に増えたためである。1997年に50日以下となり、さらに2000年に12日となった。これはヤクルトがユマから浦添市（沖縄県）に移転したためである。長年サイパンで前半のキャンプをしていた近鉄のみ残った。しかし、その近鉄も翌年には日向市（宮崎県）に全面移転し、海外キャンプをする球団は皆無となった。僅かに2004年の巨人（グアム）と、2006年と2007年のロッテ（オーストラリア・ビクトリア州のジーロング）が例外的なものである。

鹿児島県の数が最も多かったのは1975年の52日である。鹿児島市のロッテのほか、ヤクルトが湯之元（日置市）で行ったからである。ヤクルトがユマに移ってからでもロッテのキャンプは続いた。そのため2005年までは30日ほどの日数を維持した。しかし、前半をアリゾナ州（スコッツデール）で行った1993～94年、同・ピオリアに移った1995～98年に減少し、1996年の鹿児島県はゼロとなった。1999年の海外キャンプ撤退により2001年にはまた30日を超えるに至ったが、沖縄キャンプ（石垣市）開始により、2008年以降ゼロが続いている。

残る県は宮崎と沖縄である。前者は1994年の90日をピークに減少傾向にあったが、2004年に123日を記録し、前年と比べほぼ倍増した。理由は上記した。翌年103日に減少したのは、長年県内の日向市で行っていた近鉄のオリックスとの合併による。楽天の初キャンプが同市で行われたが、11日間のみであった。2006年には89日へとさらに減少。理由は楽天がキャンプの全期間を沖縄の久米島で実施したためである。2011年に78日となったが、翌年82日とわずかに増加した。

沖縄県におけるキャンプの始まりは1979年のことである。日本ハムが名護市で主力バッテリーによる2次キャンプを行った。この成功が1981年の全体キャンプを実現させ、現在に至っている。1975年沖縄海洋博覧会後の地元経済の落ち込みからの脱却をめざしたもので、当時のプロ野球キャンプ誘致活動については本土のテレビでも何度か放送された。

1982年に沖縄市で広島、翌年石垣市で中日、1987年宜野湾市で横浜と続き、その2年後オリックス投手陣が糸満市で行った。沖縄のキャンプ日数は1980年のゼロから5年後3球団で43日を数えた。1990年には110日となり、3年後131日に増加した後127日、108日と2年連続で減少した。この間球団数は5で変化ないので、期間短縮や分散キャンプの影響である。

その後増加が目立つ年は2000年と2003年である。前者は浦添市でのヤクルト、後者は宜野座村での阪神が加わったためである。楽天は2005年に球団初のキャンプを日向市と久米島で行ったが、翌年からは後者に一本化した。2008年にはロッテが石垣市で行い、沖縄の日数は遂に200日を超えることになる。

キャンプ日数の県別構成比をみると、1985年に11.1%にすぎなかった沖縄県は1990年に30%を超え、2000年に45.3%となった。2003年に50.3%に達し、2008年に67.0%、巨人が加わった2011年には68.6%と上昇した。今年（2012年）は阪神の安芸市全面撤退により、遂に70%を超えた。

宮崎県の場合は、2003年まで20%前後で推移してきた。上記した2球団の高知県からの移転

により、2004年には36.3%に達した。しかし、沖縄県の上昇により、2年後にはまた20%台に低下する。高知県は1980年に30.6%を示したが、2003年には18.8%へと低下し、翌年からは5%前後という状況が続いている。鹿児島県も1975年の13.6%をピークに低下傾向を示し、2008年からは皆無となっている。その他の県についても1975年まで約半数を占めていたが、2005年以降やはり皆無である。

以上のように、キャンプ地は大きく変動した。海外を除き、地域構造的に単純化してみると、次のようになろう。1970年代までの多極分散型から、1980年代に高知県と宮崎県の二極構造となる。1990年代からは沖縄県を中心とした三極構造を示し、2004年より二極構造へと変化した。さらに、2011年からは沖縄県への一極集中傾向もみられる。すなわち、同年に巨人が初の沖縄キャンプを実施、また、今年阪神が1軍については1965年からの安芸市を撤退し、全期間を宜野座村で行った。

2010年から2012年の間、宮崎県は91日から82日に減少したのに対し、沖縄県は197日から235日に増加した。このため全体に占めるシェアは前者25.0%に対し、後者は71.6%へと上昇した。2004年と比べると、前者の11.3ポイント減に対し、後者は23.3ポイント増となった。このような変化の背景としては上記の要因のほかに、練習試合の機会も大きい。韓国プロ野球8球団のうち5球団が沖縄キャンプをしているのも同じ理由である。

3. キャンプ日数からみた市町村別分布

この数字が最も多いところは各球団の全キャンプ日数よりも集中型か分散型かに左右される。第3表によれば、30日以上のところは1970年代にはみられなかったが、1980年には高知市（球団名は西武とオリックス、以下同じ）が59日、鳴門市（日本ハム）が33日となった。1985年は静岡市（横浜）と安芸市（阪神）、1990年は鹿児島市（ロッテ）のみである。

表にはないので、1990年代をみておくと、次のようになる。1991年の場合は沖縄県の糸満市（オリックス）のほか、鹿児島市（ロッテ）と宮崎県の西都市（ヤクルト）である。1992年は鹿児島市、翌年も沖縄県宜野湾市（横浜）のみ、1994年はほかに2市がみられた。宮崎市（巨人）と沖縄県うるま市（中日）である。中日は北谷町に移った1996年から1999年まで（1997年を除く）30日を超えた。2000年以降は表の通りである。

この点で特徴的なのは宮崎市である。巨人のキャンプ地として知られているが、上記のように、2004年にホークスが加わる。1都市に2球団という珍しい状況が生まれ、現在に至っている。そのため同市のキャンプ日数は2003年の22日から翌年は47日となった。2005年と2010年は52日と最多を示した。2011年巨人初の沖縄キャンプ（分散）により42日と減少したが、翌年は47日に増加した。ホークスのキャンプ日数が増えたことによる。2位の29日を大きく上回る。

宮崎市についてほかに特筆すべきことは1軍のメイン球場と2軍のサブ球場が近いことである。巨人の場合は少し離れているが、同じ宮崎県総合運動公園内にある。ホークスの場合は宮

第3表 キャンプ日数からみた国内の主なキャンプ地（市町村）の変化

(単位：日)

年次 (年)	静岡県		高知県				宮崎県					
	静岡市	伊東市	高知市	安芸市	春野町	黒潮町	宮崎市	延岡市	日向市	日南市	串間市	南郷町
1970	20	27	25	13	—	27	23	18	—	28	—	—
1975	19	28	27	21	—	—	25	25	—	22	—	—
1980	—	—	59	—	—	26	29	—	—	24	29	—
1985	35	—	26	29	20	—	16	—	22	21	21	—
1990	—	—	4	25	9	—	19	—	26	23	—	—
1995	—	—	10	28	8	—	30	—	16	14	—	—
2000	—	—	28	25	27	—	26	—	19	17	—	—
2001	—	—	28	28	28	—	28	—	26	15	—	—
2002	—	—	27	28	27	—	24	—	30	15	—	—
2003	—	—	25	12	24	—	22	—	28	15	—	—
2004	—	—	—	13	—	—	47	—	29	18	—	29
2005	—	—	4	13	—	—	51	—	—	16	—	25
2006	—	—	6	10	—	—	50	—	—	14	—	25
2007	—	—	9	11	—	—	50	—	—	15	—	23
2008	—	—	10	10	—	—	50	—	—	13	—	24
2009	—	—	7	13	—	—	51	—	—	14	—	26
2010	—	—	14	7	—	—	52	—	—	14	—	26
2011	—	—	8	7	—	—	42	—	—	13	—	24
2012	—	—	4	—	—	—	47	—	—	14	—	21
年次 (年)	鹿児島県	沖縄県										
	鹿児島市	浦添市	宜野湾市	名護市	石垣市	宮古島市	宜野座村	北谷町	久米島町			
1970	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
1975	28	—	—	—	—	—	—	—	—			
1980	26	—	—	—	—	—	—	—	—			
1985	29	—	—	22	—	—	—	—	—			
1990	34	—	25	16	—	—	—	—	—			
1995	9	—	28	24	—	24	—	—	—			
2000	29	28	27	30	—	28	—	28	—			
2001	33	26	23	28	—	29	—	30	—			
2002	31	25	26	27	—	28	—	28	—			
2003	30	24	28	31	—	27	12	30	—			
2004	27	30	29	29	—	19	18	27	—			
2005	28	28	27	25	—	20	16	25	14			
2006	8	31	26	27	—	23	19	27	24			
2007	11	31	26	28	—	18	18	27	21			
2008	—	31	31	31	20	17	17	31	21			
2009	—	27	29	27	23	22	17	21	21			
2010	—	30	28	26	21	17	18	25	21			
2011	—	25	28	25	24	17	17	27	19			
2012	—	28	28	28	23	17	29	29	14			

(注) 1. キャンプ日数が20日以上(現在の名称)のみ掲載した。次のところは省略する。1970年の兵庫県明石市(日数は28)と鹿児島県指宿市(27)、1975年の和歌山県田辺市(25)と鹿児島県日置市(24)、1980年の徳島県鳴門市(33)と高知県宿毛市(26)、1985年の広島県呉市(25)と沖縄県読谷村(29)、1990年の沖縄県糸満市(24)
 2. 朝日新聞、各年1月31日のキャンプ地(図表)により作成。

崎市生目の杜運動公園内に隣接している。

ところで、県別にみると集中傾向にある沖縄であるが、市町村別ではどうであろうか。沖縄県といっても沖縄島(いわゆる沖縄本島)に限られていたが、1993年に変化が起こる。

糸満市でキャンプをしてきたオリックスが1993年に宮古島市に移り、現在に至っている。県

内移動の例としては中日もある。1983年のみ石垣市、1987年からうるま市でキャンプをしているが、1996年以降は北谷町で行っている。離島でのキャンプ定着の二番目の例は新生・楽天である。2005年に久米島町で前半のみ行い、翌年から全期間となった。さらに、2008年にはロッテが長年の鹿児島市から石垣市に移った。1983年の中日以来実に25年ぶりである。石垣市のほか、浦添市と北谷町だけがキャンプ当初から毎年20日を超えている。

今までみてきたことでも明らかであるが、キャンプ地分布の変化は誘致合戦の結果である。「他県との競争のみならず県内においてもキャンプ地以外の市町村が球場の建設やキャンプの誘致活動などを進めており、今後、誘致合戦は激しさを増すものとみられる。こうした中で、各キャンプ受入地の協力会の財政事情は、役所等の経費節減に伴う補助金の削減などにより厳しくなっており、運営資金の造成が大きな課題となっている」⁵⁾。

2011年に沖縄でキャンプをしたのは10球団に達したが、集中型は6、分散型が4となる。今年も同じであるが、2球団が入れ替わった。日数は最多の29日（北谷町での中日と宜野座村での阪神）から最少の10日（那覇市での巨人）まで大きな開きがある⁶⁾。

うるま市と糸満市は1990年代後半以降日本プロ野球1軍のキャンプ地となっていないが、前者については石川野球場で韓国のLGツインズがキャンプをしており、日本の球団との練習試合を重ねている。具志川野球場もSKワイバーズが使用している。ハンファイーグルスのみは阪神が去った球場を使用していたが、今年は阪神が月末まで使用するため不可能となった。横浜2軍のあとの嘉手納町野球場、次いで中日1軍のあとの北谷公園野球場を使用することになっている。このように日韓の球団を受け入れる自治体もあるが、球場が不足気味になっており、韓国チームにとってその確保が難しい。さらに、来年のキャンプ時には沖縄市野球場が建て替え中となるので、広島のキャンプがどうなるか。セ・リーグのある球団の誘致を目的に建設されたONNA赤間ボールパーク（恩納村）も、いまのところ三星ライオンズが使用している。この球場では日本の球団との練習試合も行われるが、この時の観客数はその球団に含まれない。

上の多くの「施設はキャンプ以外にも地域のスポーツ大会やコンサート、大学や社会人のスポーツチームの合宿などのイベントにも活用され地域活性化に大きく寄与している」⁷⁾という。

IV. キャンプと観客数

1. キャンプとは

キャンプは球団や選手などにとってどのようなものか。いまさら述べる必要もないであろうが、念のためにみておきたい。その答えは、キャンプイン時の監督の言葉にみることができる。期間中特に強化すべき点はチーム事情によって異なるであろうが、次のような認識は共通のものであろう。「一年の計はキャンプにある。この1カ月が選手にとっても、私自身にとっても大事なものになる。まさに勝負。(中略) 気を引き締めて、実り多いキャンプにしたい」⁸⁾。選

手にとっても「だれもが自分の力を信じ、望みと期待を胸に秘めてスタートラインに立つ」⁹⁾。

春のキャンプにおいて、「ユニフォームを着ているプレーヤーたちと、彼らを見に来る人たちとの結びつきの強さや固さは、最高度に達する。プレーヤーたちはシーズンが始まればそのとたんスーパースターだが、スプリング・トレーニングの頃には誰にとっても気楽に声をかけることの出来る存在」¹⁰⁾である。これは大リーグだけでなく、すべてのプロ野球キャンプの一面を表わしている。キャンプは本拠地を離れて、ふだん実戦や選手を見ることができない地域で行われる。そこでは、「選手らを仲立ちに地域と球団という二つの個性が混然と溶け合い、新たな野球文化の創造を予感させるような独特の雰囲気醸成されつつある」¹¹⁾。キャンプ期間は球団、選手、記者、地域住民、観客などさまざまな人々にとって特別な時間となる。

2. キャンプ見学

キャンプは、ファンにとってはあこがれの選手の練習を間近に見ることができるだけでなく、ふだんはみられない言動にもふれることができる。サインに応じる選手の姿もそこではありふれた光景になっている。その時、選手の身近さは最高に感じられる。「松坂はある日の練習後、約40分間、立ちっぱなしで400枚ほどサインをした。『球場ではサインをするのが当たり前。それがファンサービスを積極的にやっていると言われること自体がおかしい』」¹²⁾という意見の一方で、次のような状況もある。

「キャンプに意味があるとすればファンとふれあうことだ。近ごろの選手は練習から引き上げるときにサングラスをして人と目も合わせず、ヘッドフォンをして耳も貸さない者がいる。お客が声をかけて、手を振っているのにそれはないだろう、という態度だ」¹³⁾。選手とファンの距離について大リーグと比較した指摘も注目すべきだ。「垣根を取り払うにはまず選手から声をかけなくては。(中略)その気になればいくらでもファンと接することはできる」¹⁴⁾。10年前の指摘であるが、現状はどうであろうか。

キャンプの期間中であれば、上記のことはかなり可能であろう。特に若手の選手にとってはファンに直接アピールするまたとない機会だ。2軍の選手といえども野球人としてはエリートであり、特別な存在なのである。キャンプ見学はそれを実感させてくれる。コーチ(かつての名選手が多い)から手取り足取りの指導を受ける光景がみられる。

どの球団もファンサービスを行っているが、個人的には、今年は中日球団におけるファンサービス部の新設や高木新監督の方針に期待したい。「中日がファンサービスを全面に押し出した春季キャンプを繰り広げている。『ファンと共に』をスローガンに掲げた球団の改革は、グラウンドの内外に着実な変化を生んでいる」¹⁵⁾。「今キャンプから始まった主なファンサービス」として、「ドアラの沖縄常駐、練習後のサイン会(休養日以外の原則毎日)、ドアラふわふわ(全長7メートルの子ども用エア遊具)の設置」¹⁶⁾など7項目が挙げられる。ドアラは学校訪問や祭り参加など地域貢献活動もしている。

ところで、ファンにとっても次のような選手の気持ちをくみ取ることが必要だ。「『キャンプで練習に向かう選手にサインを求めたりしないでほしい。こっちも練習に対して必死で集中しようとしているから。練習がおわったらいくらでもしますから。マナーだけは守ってほしい』と福留。求められているのは、選手の意識改革だけではない」¹⁷⁾。

このように節度を守りながらも様々な体験ができる。キャンプでもオープン戦は有料であるが、紅白戦はもちろん練習試合も無料である。出入り自由、座席も自由、場所によっては同時に青い海を眺めながら、のんびり楽しめる。名護、北谷、宜野湾および久米島の球場は海の近くにあり、キャンプ見学の合間に海岸でのんびり過ごすこともできる。春の陽光のなかで多くの球団の選手等はもちろん、日韓戦もたくさん観ることが出来る。練習またはその合間に声援を送ったり、応援歌を演奏したりする楽しみもある。そのときの選手らの反応によっては忘れたいものとなろう¹⁸⁾。いくつかの球場では週日は米軍機の爆音をあびることになるが、ファンにとって2月の沖縄は実にすばらしい。

しかし、実際その場に出かけようとする、複数個所の場合はそう簡単ではない。キャンプ地が集中している沖縄本島でさえ点在しており、そこへのアクセスやキャンプ情報の確認が必要である。この点に関しては沖縄県スポーツコンベンション振興協議会発行の『プロ野球 沖縄キャンプ攻略ガイドブック』が役立つ。これは、かなりの観客数が予想される2003年（阪神のキャンプが実現）から毎年発行されている無料誌である。年によって特集は異なるが、県内キャンプの歴史やその年の話題など全体的な情報が得られる。キャンプ全球団（1軍、2軍および韓国）がエリア毎に地図で表され、担当記者通信、ご当地グルメなども掲載されている。球団毎の練習休日のほか、紅白戦や練習試合等のチェックも不可欠であるが、この点は当日の新聞でも可能である。

これらを手がかりに路線バス等を利用することになるが、巨人や注目新人がやってきた昨年はキャンプ地を結ぶ無料のラッピングバスが運行した。これは沖縄県による「プロ野球キャンプ訪問観光促進調査業務」の一環である。那覇市を基点に中北部を回るコースや中部の各球場を結ぶコースがある。外からは窓がないように見えるバスで、車窓風景を十分楽しめるものではないが、便利である¹⁹⁾。1コースのみだが、宮古島と石垣島でも運行された。予算の関係もあるが、一部業界からの批判もあり、今年は運行されなかった。

球場に到着してまずしたいことはメンバー表（無料）の入手と当日の練習メニュー表（掲示）の確認である。お目当ての選手がいつ、どこで何をできるかが分かる。何を見たいかは人それぞれであるが、「ランチ特打」（昼の時間に行われる主軸選手のフリー打撃）も注目される。ブルペンでの投球練習はガラス越しの場合もあるが、特設スタンドで直に見ることのできる球団もある。その場合はエース級の迫力ある投げ合いを手取るように楽しむことができる。早い時間の、全選手によるウォーミングアップやキャッチボール等も見逃せない。

第4表 球団別キャンプ観客数の推移

(単位：人)

	巨人	阪神	中日	広島	ヤクルト	横浜	
2000年	267,200	63,400	○ 10,950	4,520	16,800	19,710	
2001年	◎ 275,700	44,300	11,400	7,770	25,900	17,500	
2002年	191,800	130,300	20,600	5,350	◎ 16,100	14,550	
2003年	◎ 186,500	121,000	22,600	18,670	16,800	7,350	
2004年	158,700	○ 112,000	25,500	5,600	13,300	18,800	
2005年	161,800	78,000	○ 17,400	6,700	12,700	13,800	
2006年	167,500	○ 72,500	10,600	3,850	18,300	28,700	
2007年	167,800	89,600	○ 25,200	4,400	28,400	31,300	
2008年	○ 246,200	61,100	◎ 35,400	6,020	29,500	27,600	
2009年	○ 346,300	76,200	51,500	5,210	21,650	8,200	
2010年	◎ 244,500	56,600	28,586	12,600	8,250	6,100	
2011年	195,492	63,400	○ 18,600	5,090	14,060	6,500	
2012年	202,703	54,800	○ 27,200	11,900	27,471	23,000	
合計	2,812,195	1,023,200	305,536	97,680	249,231	223,110	
	西武	オリックス	日本ハム	ロッテ	楽天	ホークス	(近鉄)
2000年	80,900	3,180	7,300	7,440		◎ 32,200	3,240
2001年	80,520	3,650	7,100	6,800		○ 36,050	11,300
2002年	62,400	3,050	4,550	8,700		95,550	○ 12,850
2003年	○ 33,250	3,950	6,480	10,400		26,700	6,850
2004年	21,200	5,300	35,500	12,800		◎ 227,300	6,570
2005年	◎ 33,500	5,260	18,400	21,180	19,700	220,200	
2006年	22,550	17,550	18,800	◎ 12,630	8,090	192,000	
2007年	10,900	11,000	◎ 15,400	12,120	9,043	254,100	
2008年	15,500	8,300	○ 20,870	31,920	8,927	251,500	
2009年	◎ 54,350	9,900	12,054	25,950	11,036	204,800	
2010年	58,200	9,300	○ 10,550	16,570	11,520	168,900	
2011年	18,962	8,050	25,850	◎ 15,000	8,656	○ 191,100	
2012年	21,120	7,100	13,295	9,900	9,100	◎ 157,400	
合計	513,352	95,590	196,149	191,410	86,072	2,057,800	40,810

(注) 1. ◎…前年日本シリーズ制覇 ○…前年リーグ優勝
 2. 日刊スポーツ、各年2月の表により作成。

3. 球団別キャンプ観客数の推移

第4表は2000年以降の球団別観客数の推移をみたものである。2000年にしたのは、ヤクルトのユマからの撤退により、海外キャンプがほぼ消滅したためである。2月のほぼ毎日、スポーツ紙に掲載される数字を合計した。但し、キャンプ日数は球団によって異なり、下旬にはオープン戦が多くなるので、2月1日～22日に限定した。全球団を掲載してあるので、沖縄でキャンプをしていない球団、1次または2次キャンプのみの球団もある。さらには練習試合等の観客数も含まれる。従って、必ずしもその球団の集客力を示すわけではない。そのキャンプ地(球場)に集まった観客数とみるのが正しい。

2000年以降の観客数には大きな変化がみられる。13年間合計でみると、100万人を超えるのは3球団である。巨人の281.2万人を筆頭に、ホークス205.8万人、阪神102.3万人となり、3球団で全体の75.1%を占める。この比率を単年でみると、2000年の70.6%から2005年に75.6%に上昇

し、2011年には78.8%へと、集中傾向が見られた。今年73.4%に低下したのはホークスと阪神の減少による。どの球団も年によって大きな差がみられる。その要因は天気、注目の選手や監督の入・退団、キャンプ地の変更、などさまざまである。前年優勝といった成績の影響も考えられるが、第4表をみる限り、あまり反映されていない。以下、観客数の多いところを含む6球団について具体的にみておこう。

a. 巨人

年による変化はあるものの、他球団と比べ目立った観客数を示している。但し、2002年以降は20万人を割っている。なんといっても監督の交代（長嶋→原）によるものである。2002年のキャンプイン観客数が象徴的である。晴天で、気温もほぼ同じであった星野・阪神（高知県安芸市）の3,000人に対し、原・巨人（宮崎市）は700人に止まった。その後も2008年まで2月1日の数は阪神より少ない。

2003年は前年日本一の効果が松井秀喜選手の大リーグ入りで減殺され、19万人を割った。2004年はここ10年余で最も少ない16万人弱となった。ホークスの宮崎市への移転やグアムキャンプ復活の影響が大きい。後者についてみると、グアムキャンプ7日間の観客1.2万人に対し、前年宮崎での6日間は3万人であった。この年の22日は日曜日であったが、雨のため1週間前と比べて4分の1に止まった。

2008年は前年のリーグ優勝とラミレス選手など大型補強もあり、約25万人を数え、7年ぶりに20万人を超えた。原監督の期間としては初めてである。2009年には約35万人となり、今までの最高である。1日の観客が4万人を超える日が3度もあった。宮崎市で行われたワールドクラシックベースボール(WBC)日本代表合宿が、キャンプ期間巨人が使用する球場で行われたためである。当時の新聞はつぎのように伝えている。「球場へ向かう車で沿道が7キロ近く大渋滞するなど、空前のフィーバーぶりで、侍ジャパンに対する期待の大きさが見えた。(中略)平日の4万人超えは毎年、話題の多かったミスター時代でもなかった」²⁰⁾。

この合宿初日に当たる2月16日は巨人キャンプが休日であり、巨人の観客数は載っていない。しかし、17日と18日の練習、21日と22日の日本代表対巨人の練習試合の観客が巨人の数字として挙げられているようである。このうち22日は日曜日にもかかわらず、ほかの3日の4万人超えよりかなり少なく、2.6万人に止まっている。これは雨天のためであるが、悪天候でもこれほど集まったのである。

2000年以降、1日の観客が5万人を超えたのは12球団の中でも巨人のみである。2000年の12日(土)と2001年の11日(日)にともに約5.5万人に達した。前者は長島監督が26年ぶりに背番号「3」を披露した日である。後者は「女性ファンの支持が球界ナンバーワンのアイドル」二岡選手に、「長島監督が熱血ノックをふるった」日で、「練習開始前からスタンドが超満員」²¹⁾だったという。その6日後には「今年初の紅白戦と新球場見たさに日本キャンプ史上最多数のファンが殺到するのは間違いない」²²⁾と予想されたが、好天にもかかわらず2.1万人に止まっ

た。5.5万人という数字はいまだ破られていない。

1日4万人超えも2010年以降はみられない。期間合計では2011年に20万人を割ったが、今年は20.3万人に回復した。杉内、村田両選手を含む大型補強の割に増加率は3.7%と小幅である。ラミレス選手の移籍や観客の多い休日が1回少ないことが主な理由である。

b. ホークス

第4表によると、2002年にかなり増えた。1日の観客が1万人を超えたのもそれまでは1～2回のみであったが、この年は4回を数えた。特に11日（祝）は2.3万人に達し、高知キャンプ時代唯一の2万人超えとなった。当時の新聞は次のように伝えている。「夢のような光景に小さな町の球場が揺れた。グラウンドに姿を見せた長嶋氏のもとに寺原があいさつに駆け寄り、王監督も加わってのスリーショット。（中略）大物ルーキー寺原（中略）を急きょブルペン登板（中略）観衆は大興奮」²³⁾。

劇的に変化したのは2004年である。この年の観客は約23万人となり、それまで最も多くの観客を引きつけてきた巨人を抜いた。その後も安定した数字を示している。高知市から宮崎市にキャンプ地を移し、本拠地からの交通の便のほか、地域密着の強調と多くの若手選手の人気と活躍などがその主要因といえる。特に女性ファンの開拓に力を入れ、キャンプ時にしっかりと選手を身近に感じてもらう努力をしてきた。

2004年には西武も高知県春野町から宮崎県南郷町に移転したが、こちらは数を減らした。松坂投手の存在により2000年と2001年にはホークスの2倍以上となったが、移転とともに10分の1ほどになった。同投手が大リーグに移籍した翌年は1万人余まで減少した。

ホークスはWBCの影響が出る前の2008年まで5年連続で巨人の観客数を超えた。2003年まで1日の観客が2万人を超えたのは僅か1回であった。しかし、2004年から2008年までは3～4万人台の日が毎年数回みられた。2005年には3日連続で3万人超え（計11.8万人）を記録し、同じ宮崎市での巨人（6.8万人）を大きく上回った。当時の新聞に次のような指摘がある。「今季、ソフトバンク主催試合の女性比率は平均62%に達した。（中略）福岡に移転して17年、女性を狙った集客策には年季が入っている。（中略）女性層の掘り起こしは福岡から九州一円へ、という面的広がりをもたらした。（中略）今でも王監督ほど、ファンにサインし、気軽に声をかける人はいない」²⁴⁾。

2011年の観客数は4年ぶりに増加したが、今年は宮崎市移転後最小となった。最初の土曜日が練習休みだったこともあるが、和田、杉内両投手など4人も主力選手流出の影響が明らかである。日本一の効果がかなり減殺された。

c. 阪神

第4表によると、阪神の観客数が劇的に変化したのは2002年である。沖縄への分散キャンプの前年である。その数約13万人となり、前年比約3倍となった。主な要因は星野監督の就任である。中日から阪神へのいきなりの移籍であった。上記したが、キャンプ初日（金）の観客は

原・巨人の700人に対し、3,000人を数えた。1.6万人がおしかけた9日（土）の状況について、新聞は「フィーバーは一体どこまで続くのか...。安芸市営球場に押し寄せる人の波。スタンドはビッシリ埋まり、通路まであふれる」²⁵⁾と伝えている。さらに、翌10日（日）は2.3万人となった。

それまでの最高は2万人が2度あった。1979年の小林繁投手（巨人）の電撃トレード入団、1999年の野村監督1年目と紅白戦での「投手・新庄」の実現の時である。それらを超えたこの日は「星野フィーバーに監督自身が巻き込まれて遅刻する前代未聞の珍事（中略）想像を絶する人出」²⁶⁾となった。同年の16日も同数の2.3万人となり、紅白戦も行われた。

その年のキャンプイン前日、安芸市役所を訪れた星野監督を職員200人が「六甲おろし」の大合唱で出迎えるという異例のセレモニーもあった。すでに懸念されていた沖縄キャンプが背景にあったものとみられる。沖縄でも宮古島の下地町（現・宮古島市）や沖縄本島の恩納村などで、強い誘致活動とそのための球場等の整備が実施もしくは計画されていた。結果としては、沖縄本島の宜野座村が選ばれ、2003年より1次キャンプ地となる。しかし、「村にとって、誘致は大変だった。昨年まで日本ハム2軍がキャンプを張っていたが、阪神1軍のためには施設を拡充する必要があった。球団が出した39項目の条件を満たすため総額5,800万円が投入され（中略）来年は外野ネットの拡大、屋内練習場の建設なども計画されている」²⁷⁾。

2003年2月1日、人口4,749人（2000年国勢調査）の宜野座村で阪神のキャンプが始まった。この日の観客7,000人という数字は期待の大きさを十分に物語っている。2000年以降のキャンプイン日としては、阪神はこの時だけ。他にこの数字を超えたのは2009年の巨人とホークスのみである。

同年の全期間観客数は前年比7.1%減となった。理由は沖縄への分散キャンプである。宜野座キャンプ期間の12日までをみると、31.5%減となるが、安芸市での13～22日計は30.1%増となる。集客力の違いであるが、沖縄に限れば、阪神の観客数は目立つ。この年12日間（2日の休日を含む）の数は阪神が54,000人であるのに対し、他の6球団は合わせて57,350人であった（第5表）。後者の場合、11日の広島だけで15,000人となっているが、これはキャンプ地・沖縄市野球場での阪神との練習試合の観客数である。この点を考慮すれば、上の数字も阪神が上回る。県全体で見ると経済効果も大きく、地元紙には「阪神特需」という言葉も踊っている。しかし、宿泊施設は恩納村にあるので、宜野座村における「実際の経済効果は少ない（中略）協力会（中略）は『お金の問題ではなく、人づくり、地域づくり、野球振興が目標』と話した」²⁸⁾という。

第4表によると、全期間の観客数は引き続き減少した。しかし、宜野座キャンプのみをみると、事情は少し異なる。すなわち、2004年には前年比37.0%増の7.4万人を数えた（第5表）。この数字は3年後の最多数にほぼ匹敵するものである。毎日の数字をみると、11日に宜野座初となる2万人、14日には2.5万人の観客が集まった。前者は広島、後者は「新庄効果」の日本ハムとの練習試合による。逆に、15日は好天の日曜日にもかかわらず、1,500人に止まった。名護市

営球場に場所を変えた練習試合のためである。

2012年の観客数は5.5万人で、2001年以来の少ない数である(第4表)。昨年と比べると、13.6%の減少となる。主な理由は安芸市を撤退したことである。昨年の安芸キャンプでは最初の4日間(19~22日)で36,000人を集めたが、今年5日間(練習休みを含む)の宜野座では13,800人に止まった。この間日曜日にオープン戦(沖縄初の巨人・阪神戦)があり、16,264人の入場者を集めた²⁹⁾。外野席にはいつもの応援風景があったが、那覇市で行われたため、この数はすべて巨人に入っている。

d. 中日

北谷公園野球場でのキャンプは1996年からである。その間、日本一1回、リーグ優勝5回という成績を上げた。北谷町の存在と「ちゃたん」という読み方が広く知られるようになったのはこのキャンプによるものといえる。観客数は2002年にほぼ倍増し、その後も2年間増え続けた。

選手らの宿舎は町内にない(1軍恩納村、2軍読谷村)ので経済効果は限られたものであるが、非経済的効果は大きい。そのひとつが少年野球教室であり、子供達の健全育成に役立っている。以前見学した時、指導者はもちろん中日のユニフォーム姿であるが、子供達は他の3球団の名前入りであった。その時少し違和感があったが、阪神の沖縄キャンプ構想報道後(正式決定は2002年6月20日)変化があった。「以前にもまして中日を応援しているのが、キャンプ地・北谷町の人たちだ。北谷第二小学校の野球チーム『北谷タイガース』はこの春、『北谷ドラゴンズ』へと名前を変えた」³⁰⁾。

落合監督1年目(2004年)の観客数は約2.6万人で、過去最多を示した。初日の4,000人は、宮崎市に移転したホークスに次ぐものであった。いきなり紅白戦が行われた日である。この年は次のようなこともあった。「監督の要望で2,000万円をかけて大改修した日本初の10人用ブルペン。(中略)今キャンプから『オレ流』を導入した練習場」³¹⁾。17日に視察に訪れたアテネ五輪日本代表の長嶋監督も、「圧巻だったのはブルペン。あれだけの勢い、迫力は驚きです」³²⁾と舌を巻く。この日の観客も4,000人を数え、週日としては異例である。

2005年は5年ぶりのリーグ優勝の翌年であるが、キャンプ後半の悪天候もあり、減少した。2008年の増加は53年ぶり日本一の効果がみられるが、翌年は過去最多の5万人を超えなくなった。今までの最多ではなかったが、5,000人の日が2回あり、1,000人を割る日もなかった。その後はかなり減少しているが、雨天の日は2~3日しかない。2011年の場合は、他球団の沖縄キャンプが大きな注目を集めたためであろう。

ほかには航空会社の提供座席数減少の影響も否定できない。沖縄県観光商工部発行の『観光要覧』によれば、2011年2月における県全体の入域観光客数は前年同月比で3.7%減少した。名古屋方面からの減少率が特に目立ち、17.3%に達した。観光客が最も多い月は8月であるが、名古屋方面は他地域と異なり、2月が2番目であった。しかし、2011年には6番目に後退した。

この変化も中日のキャンプ観客数減少と無関係ではない。

キャンプ地に隣接して広い駐車場、ショッピングセンター、観覧車など各種娯楽施設、人工ビーチ、温泉、沖縄一の高層リゾートホテルなどがある。これらは「美浜タウンリゾート・アメリカンビレッジ構想」によるものである。さらに北側の公有水面埋立地にはフィッシャリーナも整備中である。このように県内でも注目される地区となっており、季節を問わず多くの人を訪れる。しかし、今までのところ、中日はその地の利を生かしきっていない³³⁾。今年一緒にキャンプ見学を楽しんだ沖縄の知人も、「このあたりには何度もきているがキャンプを見るのは初めて。要するに仕掛けがない」と話す。入場無料のキャンプ観客増が最大の目的ではないが、もったいない感じがする。

e. 楽天

楽天は最初から沖縄キャンプをしている唯一の球団である。しかも、人口9,178人（2005年国勢調査）の離島・久米島である。「突貫工事の球場こそ他球団に見劣りしたが、島民がサトウキビの収穫そっちのけで球拾いのボランティアに参加した。ほとんどがテレビでしかプロ野球を見たことのない離島の人々と、新球団との交流がほほえましかった。島は経済的にも潤い、チームのイメージもぐんとアップした」³⁴⁾。また、2村の合併に伴う町長選の結果、「何かと対抗意識が強かった旧2村の住民感情は、10年以上しこりを残すのではないかといわれた。だが『楽天のキャンプ受け入れ準備を通じて（中略）久米島町が初めて一つになった』。多くの町民が異口同音に話す。楽天キャンプは久米島町の名を全国に広めただけでなく、町民に新たな夢と誇りを与えたようだ」³⁵⁾。

最初の2005年は19,700人であったが、翌年58.9%減少した。確かに前年の成績は5位から25ゲームも離れての最下位（勝率.281）であった。2戦目が象徴的である。「書き始められたばかりの楽天球団史に、いきなり『26』失点が刻み込まれた。（中略）前日の歴史的勝利の余韻も吹き飛ばす屈辱の大敗」³⁶⁾であった。しかし、成績不振による注目度の低下や僅か1年での田尾監督の突然の解任が、上の減少につながったわけではない。野村克也が5年ぶりに監督に復帰したからである。したがって、主な要因はキャンプ地の変化といえる。

2005年は14日まで久米島で行い、その後宮崎県日向市に移動した。翌年は久米島に一本化したのである。14日までを合計すると、2006年の場合、4,940人となり、前年より24%少ない。しかし、前年の数字には球団初の実戦（紅白戦）の観客3,500人が含まれる。これを差し引くと、2006年のほうが多くなる。

15日から22日までの数字をみると、2005年の日向キャンプは翌年の久米島キャンプの4.5倍となる。前者の紅白戦では天気恵まれ、7,600人を集めた日がある。要するに、紅白戦の観客数の差が反映されたものである。その後のキャンプは久米島に一本化されている。2007年の田中将大投手や2011年の星野監督の入団も目立った増加をみせていない。2011年の減少はキャンプが例年より2日短縮されたことも一因である。19日のオープン戦は16,567人を集めたが、那覇

市で行われたため、この数は巨人の観客に入っている。

2012年の観客数は前年の5.1%増であるが、キャンプ日数も3日多い。第1図や第1表にはないが、16日から25日まで2次キャンプを同県内の金武町で行った。米軍基地跡に昨年完成したばかりの球場で、サブグラウンドや屋内練習場もなく、ブルペンも狭い。このため練習試合も他球場となる。巨人や阪神との練習試合観客数も楽天には一切入らない。

f. 日本ハム

沖縄キャンプの歴史が最も長い球団である。2003年の観客数は6,480人であったが、翌年はなんと5.5倍となった。大リーグでプレーした新庄剛志選手の入団によるものである。2000年から2003年の間に1日1,000人を超えたのは僅かに1回のみであったが、2004年には初日から1,500人（前年は土曜日で、晴天にもかかわらず100人）となった。その後も球団初の3,000人超えが2回あり、15日（日）には1.2万人という、同球団としては全く異例の数字がうまれた。但し、これは阪神との練習試合の数字であり、割り引いて捉える必要がある。

2011年は斉藤投手の入団が話題を呼び、例年になく多くの観客が名護市営球場に足を運んだが、2004年と比べると、22日間合計で27.2%少ない。雨天による練習試合中止の影響もある。1日最多観客も13日（日）に5,200人となったが、上の数字と比べると半分以下にとどまる。19日（土）と20日（日）がともに1,000人ほどで、伸びなかった。天候にも恵まれなかったが、巨人初の沖縄キャンプの影響もあろう。

2012年の観客数は48.6%と、ほぼ半減した。昨年は1,000人以上の日が9回あったが、今年は4回に止まった。ダルビッシュ投手が大リーグに移り、斉藤投手を取り巻く状況も昨年とは大きく異なる。

V. 沖縄におけるキャンプ観客数の推移

第5表は第4表とは異なり、各球団の沖縄キャンプのみの観客数を示したものである。沖縄キャンプをしていない西武と1980年のみ行ったホークスの数字はない。分散キャンプなどの球団については両表の数字が異なる。集計期間（1～22日）の間沖縄キャンプのみの中日、ヤクルトおよび日本ハムのほか、2006年からの楽天、2008年からのロッテの数字は再掲となる。

オリックスの2006年の数字が前年比3.7倍となっているのは清原、中村両選手の加入によるものである。2日間で9,000人が集まった。1日の観客が3,000人を超えたのはこの時のみである。

ヤクルトの沖縄初キャンプとなった2000年には6球団で6万人であったが、2003年には13万人となった。なんといっても人気球団・阪神初の沖縄キャンプの影響である。2年目の星野監督や金本選手の入団も大きい。阪神だけで約5.4万人を数えた。上でもふれたが、沖縄市で行われたため広島に計上されている練習試合観客1.5万人を考慮すれば、他の6球団合計を上回る。

2004年の阪神は、前年のリーグ優勝の影響もあるが、期間が6日長くなったため約7.4万人に増加した。しかし、沖縄全体に占める比率は42.8%に止まった。「新庄効果」で日本ハムが前年

第5表 沖縄春季キャンプの球団別キャンプ観客数の推移

(単位：人)

年次(年)	広 島	中 日	横 浜	ヤクルト	阪 神	巨 人	日本ハム	オリックス	楽 天	ロッテ	合 計
2000	2,030	10,950	19,710	16,800	—	—	7,300	3,180		—	59,970
2001	3,420	11,400	17,500	25,900	—	—	7,100	3,650		—	68,970
2002	2,075	20,600	12,400	16,100	—	—	4,550	3,050		—	58,775
2003	16,600	22,600	7,350	16,800	54,000	—	6,480	3,950		—	127,780
2004	1,700	25,500	18,800	13,300	74,000	—	35,500	3,950		—	172,750
2005	3,000	17,400	13,800	12,700	41,500	—	18,400	4,760	6,500	—	118,060
2006	2,000	10,600	28,700	18,300	56,500	—	18,800	17,550	8,090	—	160,540
2007	2,800	25,200	31,300	28,400	74,600	—	15,400	8,600	9,043	—	195,343
2008	2,720	35,400	27,600	29,500	44,800	—	20,870	5,600	8,927	31,920	207,337
2009	2,510	51,500	8,200	21,650	57,900	—	12,054	9,900	11,036	25,950	200,700
2010	4,550	28,586	6,100	8,250	30,600	—	10,550	5,700	11,520	16,570	122,426
2011	3,520	18,400	6,500	14,060	26,900	58,692	25,850	8,050	8,656	15,000	185,628
2012	7,700	27,200	23,000	27,471	54,800	37,264	13,295	7,100	9,100	9,900	216,830
合計	54,625	305,336	220,960	249,231	515,600	95,956	196,149	85,040	72,872	99,340	1,895,109

(注) 日刊スポーツ、各年2月の表により作成。

但し、2012年についてはりゅうぎん総合研究所の数字を使用した。

比実に5.5倍増となったからである。7球団のうち2球団のみで全体の63.4%を占めたのである。阪神の観客数が最も多かったのは2007年であるが、2004年とほぼ同じである。しかも、それは日本ハムとの練習試合観客2万人を含むものである。その後阪神の数字は減少している。2009年前後は中日と大差ない。全体に占める割合も20%台に低下し、巨人が加わった2011年には14.5%となった。

全体の数字が球団数とともに増加してきたが、2005年には楽天が加わったにもかかわらず、31.7%減少した。キャンプの延べ日数はほぼ同じであるが、阪神が3万人余(43.9%)減少したのが大きい。その理由は、前年には①優勝効果があった、②天気恵まれ、11日(祝)と14日(土)はともに2万人以上を集めたほか、この年はキャンプが2日短縮され、日曜日にも1回少なかったためである。

その後は増加した。2008年ロッテ初の沖縄・石垣島キャンプでは離島にもかかわらず、31,920人を集めた。これは、オリックスの宮古島や楽天の久米島の数倍となる。地元出身選手(大嶺投手)の参加も加わり、25年ぶりのプロ野球キャンプに沸いた。「1983年にキャンプを張った中日には、連日の雨天でわずか1年で撤退され(中略)同じ離島の宮古島と久米島も誘致に成功しており、石垣島は間近でキャンプによる地元の活性化を眺めているしかなかった」³⁷⁾。この年は沖縄全体でも20.7万人となり、ピークを示した。

2010年のキャンプ初日は、宮崎市が雨天のため、中日が全球団中最も多い3千人の観客を集めた。しかし、最初の日曜日は雨にたたられ、1,000人に止まった。阪神は800人、ヤクルトも600人であった。中日が3,000人を超えた日数は2009年の9から翌年5となり、2001年にはゼロとなった。この間、阪神の場合は2～3ではほぼ同じだが、最多観客数は2.3万人、1万人、8千人と年々減少した。なお、ヤクルトの1日の最多観客数として2009年2月15日に1.2万人が記録

されている。同日の阪神は日曜日にもかかわらず1,100人にすぎない。要するに、両チームによる練習試合が浦添市民球場で行われたことによる。

沖縄全体の観客数は2011年にピーク時の約90%に当たる18.6万人まで回復した。その31.6%は初めての巨人によるものである。斉藤投手の入団で前年比2.5倍となった日本ハムの観客は2.6万人である。新庄選手が加入した2004年に比べると72.6%に止まるが、阪神との練習試合観客数を考慮すればほぼ同じである。

2012年は21.7万人と、これまでで最多となった。阪神の宜野座村への全面移転が主要因である。中畑監督が注目される横浜も前年比で3倍を超えた。沖縄県を宮崎県と比較してみよう。集中型、分散型の合計でみると、直近（2012年）の球団数はそれぞれ10、4となるが、観客数はそれぞれ21.7万人、34.8万人である。人口そのものがかかなり違うので単純比較はできないが、観客数でみる限り、まだかなりの差がある。

ここまで第5表を用いて毎年22日間の数字でみてきた。参考として第6表を示すが、詳述は避ける。この原稿の締切日までキャンプが続くので、今年の数字は載っていない。こちらはキャンプ全期間の観客数を表している。両表の差が23日以降の観客数となる。オープン戦が多くなるので、その球場でキャンプする球団の観客数が増える。

最後に、球団への期待と県民に応援を呼びかけた地元2紙の社説に注目したい。「沖縄キャンプを全県民が歓迎し、素晴らしい成果を挙げることができるよう声援したい。『沖縄でキャンプを張って本当によかった』と各チームの監督や選手がそう話してくれるキャンプを一と願う。(中略) キャンプに最適地と、より言われるためには、県民のもっと強い声援が何にも増して求められる」³⁸⁾。

少し長くなるが、もう一つ。「沖縄でしっかり体と技を磨き、日本一、リーグ優勝を遂げるチームが誕生してほしい。県民とともに心から『チバリヨ〜』の大声援を送りたい。(中略) 多くの県民が各球場に出掛け、選手たちに声援を送ってほしい。それは厳しい練習に臨む選手た

第6表 沖縄春季キャンプの球団別の観客数の推移（全期間）

(単位：人)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
日本ハム	21,300	31,900	18,600	16,800	34,900
広島	3,600	3,100	3,100	5,100	4,000
中日	29,700	55,000	62,800	35,600	27,100
横浜	39,500	39,700	17,600	20,600	14,800
オリックス	8,600	5,600	10,000	6,200	7,900
ヤクルト	41,100	52,400	33,900	26,700	25,200
阪神	74,600	35,800	57,600	30,600	26,900
楽天	9,000	9,100	11,000	11,500	8,700
ロッテ	—	31,900	27,800	17,800	15,800
巨人	—	—	—	—	87,800
計	227,400	265,000	242,000	171,000	253,100

(注) りゅうぎん総合研究所の資料による。

ちにとって、何よりの活力源となる。逆に選手たちのひた向きの姿は、われわれ県民、特に子どもたちにとって、貴重な学びの機会になる。『親の背中』に勝るとも劣らない輝きを持ったものともいえる。身近で『一流』に触れられるチャンスをぜひ生かしたい。(中略)各球団が沖縄キャンプを決定した時の、感激、熱気をいま一度思い起こそう。観光客誘致や地域経済、教育などいろんな意味で、県民に他府県では望むべくもない絶好のチャンスが与えられていることも、あらためて認識したい。県民にできることは、選手たちを激励することだ³⁹⁾。

VI. おわりに

沖縄を「ベースボールアイランド」に変貌させる2月。沖縄を明るくし、日韓交流もみられるキャンプの季節。ファンにとっては野球と沖縄が一度に楽しめる、嬉しい季節だ。そのキャンプの観客数を年別、日別にみることにより、大きな変化と球団別差異を確認できるだけでなく、その数の意味も知ることができる。

キャンプ地の誘致合戦は激しさを増しており、現在のキャンプ地にも不安がつきまとう。すぐという訳ではないが監督交代も一大契機となるので、その点も気がかりだ。十分な説明がないままに撤退受入を余儀なくされる自治体もある。本稿では取り上げなかったが、誘致の経過のほか、撤退後の現状や問題点(キャンプの評価、施設の利用状況、地域経済や社会への影響、など)についての詳しい分析も望まれる。

プロ野球キャンプについては、様々な形で授業中にも取り上げることがある。興味を示す学生はもちろん多い。本稿はそれを意識して、できるだけ具体的にまとめた。彼らを含め、このことに関心を持つ人びとに、これを手がかりにいかに関心を持ってもらえるか。少なくともより関心を深め、現地での見学にも役立ててほしい。キャンプを見るのは楽しいが、それを通して学ぶことも多いはずである。

〔付記〕

この「資料」は特に次の方に捧げたい。一人は、本号の記念になっている加藤勇夫先生です。長い間本学の発展に多大な貢献をされたことはもちろんですが、個人的にも何かと大変お世話になりました。好きな中日もよく話題になりました。ある会において、中日ドラゴンズ・高木守道新監督の前でハーモニカ演奏(多くの応援歌)の機会を設けていただきました。もう一人は沖縄在住の喜屋武臣市氏です。多方面で活躍されておられますが、かつて沖縄労働経済研究所に勤務されていたときに、ゼミ合宿で沖縄経済についての講義を何度かお願いしました。ご多忙の中、快諾いただき、学生にとっても貴重な学びができたと思います。その後も、たびたびの沖縄訪問の際に、車での案内など、楽しい時間をもつことができました。さらに、いろいろご教示いただきました。厚く御礼申し上げます。

(2012年2月28日)

注

- 1) 宮城彰仁「沖縄県におけるプロ野球キャンプ開催の地域的要因」『沖縄地理 第7号』沖縄地理学会, 2006年, 111~124頁。
- 2) 同上, 121頁。
- 3) 日刊スポーツ, 2004年2月14日。
- 4) 琉球新報, 2011年2月20日。
- 5) 「沖縄県内における2006年プロ野球春季キャンプの経済効果」『りゅうぎん調査 2006年4月号』りゅうぎん総合研究所, 25頁。
- 6) 2004年から分散キャンプをしてきたオリックスは, 今年3市に分けることになった。宮古島市から高知市に移動していたが, その間今年初めて4日間ながら那覇市でも行なった。但し, すべて練習試合である。これを入れれば那覇市の日数は14日となる。
- 7) 伊佐昭彦「プロ野球沖縄キャンプの経済効果と地域振興」『しまたてい No57』沖縄しまたて協会, 2011年4月, 22頁。
- 8) キャンプイン時の野村監督, 朝日新聞, 2006年2月1日。
- 9) 中日新聞, 2004年2月1日。
- 10) ダニエル・ワイル(写真), ビーター・リッチモンド/デイビッド・ハルバースタム(文), 片岡義男訳『ベースボール この完璧なるもの』ベースボール・マガジン社, 1996年, 14頁。
- 11) 琉球新報, 2008年2月2日。
- 12) 朝日新聞, 2005年3月19日。
- 13) 豊田泰光「春秋のキャンプ, 必要か」日本経済新聞, 2010年10月14日。
- 14) 「与田剛のプロフェッショナルズ」中日新聞, 2005年5月6日。
- 15) 中日新聞, 2012年2月7日。
- 16) 同上。
- 17) 中日スポーツ, 2005年2月7日。
- 18) 一例として筆者の個人的な経験を紹介する。球団や選手の応援歌, その町の歌などを, チャンスを逃さないようにハーモニカで演奏する。特に韓国選手の反応が印象に残っている。キャンプ地では様々な楽しみ方を見出すことができる。
- 19) 『プロ野球キャンプ訪問観光促進調査業務事業報告書』(アドスタッフ博報堂, 2011年3月)によると, 沖縄県内外居住者を問わず, 「大変便利」と「便利」が90%近くを占めた。キャンプ地訪問の3大理由は, 県内居住者の場合「好きな球団または選手がいるから」が55.2%, 「無料バスがあるから」49.2%, 「特定の球団, 選手に限らず野球が好きだから」42.1%となっている。県外についてはそれぞれ58.3%, 26.5%, 34.7%である。
- 20) スポーツ報知, 2009年2月17日。
- 21) 日刊スポーツ, 2001年2月12日。
- 22) 同上, 2011年2月17日。
- 23) スポーツニッポン, 2002年2月12日。
- 24) 日本経済新聞, 2005年12月17日。
- 25) 中日スポーツ, 2002年2月1日。
- 26) 日刊スポーツ, 2002年2月11日。
- 27) 中日新聞, 2002年2月7日。
- 28) 同上。
- 29) 沖縄キャンプにおける最多観客数は, 昨年沖縄セルラースタジアム那覇でのオープン戦(巨人・楽天戦)での16,567人である。断続的な雨の中ではあったが, 沖縄初の巨人にとって初の実戦として注目された。楽天での県出身選手が存在(2名出場)も大きい。
- 30) 中日新聞, 2002年4月19日。
- 31) スポーツニッポン, 2004年2月10日。
- 32) 中日新聞, 2004年2月18日。
- 33) 今年の場合, 集まったファンへのサービスは確かに改善されたが, 一考を要する点も多い。上記施設に集まる人々にはほんの少し足を向けてもらう方策はいろいろ考えられる。プロ野球, キャンプ, 球団に関心を持ってもらうには「ファンと共に」の継続が必要だ。新しいことをやるのもいいが, 今年の試みを効率よく, 充実させることが望ましい。たとえば, 「ドアラふあふあ」もよく見える場所に置かれているが, その利用

について子供連れ家族に十分認知されているという印象はなかった。

34) 朝日新聞, 2005年2月26日。

35) 日本経済新聞, 2005年2月7日。

36) 同上, 2005年3月28日。

37) 沖縄タイムス, 2008年2月5日。

38) 同上, 2000年2月2日。

39) 琉球新報, 2003年2月2日。